



走行初日、話題を聞きつけて青いSLを順番に記念撮影する家族連れでにぎわいました。

子どもたちに“夢”を与える大井川鐵道(株)の挑戦に注目！

夏休み限定！「SLくん」登場 “青いSL”が川根路を走った

青いSLが7月21日、夏休み期間限定で走り始めた。
SLは“黒い”という常識を覆す、明るいブルーにお色直しされた。
乗客の反応は上々で、車内は子どもたちの笑い声に包まれていた。

大鉄キャラクターを実物化

大井川鐵道(株)は、従業員考案のキャラクター「SLくん」をイメージした、青い塗装を施したSLを、夏休みの家族連れに楽しんでもらおうと、夏休み期間限定で走らせていました。

SLくんは同社創立80周年の平成17年に従業員のアイデアで生まれたキャラクターで、青色と大きな目、赤いちょうネクタイが特徴です。これまで、SLのヘッドマークや従業員の名札などに使用してきましたが、このたび実物化したとのこと。



青色が特徴の「SLくん」
従業員が平成17年に考案

C11形227号機を青色に塗装

青く塗装されたのは、昭和51年に大井川鐵道本線で初めて保存運転に使用された昭和17年製のC11形227号機。4日間かけて黒から青色に塗り替えられ、大きな目と赤いちょうネクタイが取り付けられました。



「夏休みの間、子どもたちに喜んでもらえたら」と話す伊藤営業課長

子どもたちに夢を

青いSLを見た子どもたちは「すごい」「かわいい」などと楽しそうに笑っていました。話題性はもちろんのこと、SL「黒く」でなくても期間限定ならと、営業サイドからの働きかけで実現しました。来年以降も実施したいことです。



⑥塗装前
⑤青色塗装中



運転期間終了後は、本来の黒色に戻し、10月5日からの「SLフェスタ2012」でもC11形227号機は走行する予定です。
【問】同社鉄道営業部
☎0547(45)4112

this month
HighLight

1
今月の注目

龍泉伝統の青磁器を友好の証に。㊟蔡書記 ㊟佐藤町長



龍泉市は人口約28万人、悠久の歴史文化と豊かな自然が特徴の都市

中国・浙江省「龍泉市」と友好交流推進に関する意向書調印

本町は中国・浙江省西南部に位置する「龍泉市」と友好提携都市を目指し8月2日、友好交流推進に関する意向書を取り交わした。

今後、文化・芸術・観光・経済・行政など、さまざまな分野の協力を検討していく。

「開かれたまちづくり」の推進

龍泉市の「龍泉青磁の伝統工芸技術」は世界遺産として、平成21年に無形文化遺産に登録されました。この名譽ある「龍泉市の青磁文化」と「本町の茶文化」をはじめとする文化、芸術、観光、経済、行政など、さまざまな分野で交流することで、国際的視野に立った「開かれたまちづくり」を目指し、町民の財産につながることを目的に、友好交流を前向きに検討します。

また、交流は平成21年度に川勝県知事が「本町のお茶を世界でも有名な龍泉市の茶わんで飲む」という素晴らしい交流ができれば、という提案がきっかけです。これまで、本町から2回龍泉市を訪問しています。

さまざまな分野での交流を

来町したのは、龍泉市のトップである蔡曉春書記をはじめとする、龍泉市幹部や伝統工芸技術を継承する陶器職員ら9人の訪問団です。

取り交わした意向書は、「双方の歴史文化伝統を尊重しながら相互の文化、芸術、観光、経済行政などの分野における協力を進め交流関係を促進する」など

とする内容です。日本語文、中国語文の2通に佐藤町長、蔡書記がお互いにサインを取り交わしました。

友好提携に向け、大きな一歩

佐藤町長は「今後とも、さまざまな交流のあり方について、お互いの意見を交わし合い、龍泉市と本町の関係が、一層深まることを期待しています」と述べ、蔡書記も「今回は良いスタートであり、両市町にとって新しい発展を迎えます。さまざまな分野において共に協力し、より美しい未来を創ることを期待します」と述べました。

近年は全国でも、中国・浙江省内の自治区との交流が進められており、近隣では島田市が湖州市と、菊川市が紹興県と友好提携を結んでいます。本町においても交流を通じて、世界へ魅力発信するとともに今後の発展が期待されます。



this month
HighLight

2

今月の注目